



「げんせつ小町サミット2022」を開催

日建連は去る二月二十二日、「げんせつ小町サミット2022」をZoomウェビナー形式にて開催した。

「げんせつ小町サミット」は、全国の建設現場で働く「げんせつ小町工事チーム」が交流を深める場として企画した。はじめに、げんせつ小町部会の細川珠生部会長（三井住友建設(株)取締役）と司会を務めたげんせつ小町支援専門部会の畠中千野部会長（大成建設(株)土木営業本部電力営業部副部長）が画面越しに集まった約七〇〇名の参加者に向かつてあいさつを述べた後、細川部会長による基調講演「D&Iとげんせつ小町のこれから」がスタート。細川部会長は、D（ダイバーシティ）&I（インクルージョン）の意味を再確認したうえで、なぜD&Iが求められるようになったのかを、げんせつ小町の活動と重ねながら

りがちな掃除を軽減するなどしている。また、げんせつ小町の活動に貢献している技能者を表彰するなど、現場での交流にも積極的だ。発表者の志手さんは、「げんせつ小町の活動を広めることで、建設業に関わる女性が少しでも働きやすさを実感し、働き続けたいと感じられる魅力的な業界にしたい」と意欲を語った。

四、「ふじさん小町」(株NIPPON)

外国籍の技術者や子育て中で短時間勤務をしている女性職員が多く、誰もが働きやすい環境を整えるために、分業を意識して人員配置した結果、時間外労働が大幅に減ったという。多様な人が働く職場であることから、誰にでも分かりやすい指示を出すことや書類様式の統一化などを徹底し、食事会などを開催しながら交流を図っている。また発表者の増谷さんは、女性の施工管理者の活躍が少ないなかで、「女性でも仕事を進め、きちんとしたものがつくれるということを伝え続けた」と

から分かりやすく解説。「マイノリティである女性たちが本場に活躍するためにはD&I戦略が必要です。それは女性のみならず男性やLGBTQ、外国人や病気を抱えながら働く人にとっても自己実現しやすい社会につながっていくはず」と述べた。加えて、げんせつ小町の今後の活動については、「目標に向けて具体的な行動を起こすことによつて、建設業に携わるあらゆる人にとつて自らの人生における目的や夢の実現に資するものになりたい」と訴えた。

基調講演の後、げんせつ小町専門部会の委員三二名が選出した五組のげんせつ小町工事チームの取組み報告が行われた。

一、「造る系☆金しゃち娘。」(株大林組)

自身の経験にも触れた。担当するうめきた2期北街区賃貸棟の作業所では、「みんなでつくる笑顔咲く梅こまち」をスローガンに、作業所の雰囲気盛り上げている。特にイベント活動に力を入れており、歳時記にちなんだイベントを次々と開催。同工事チームが管理している「梅こまちファーム」で採れた新鮮野菜をサラダにして配布するなど、楽しい現場にしているため

五、「梅こまち」(株竹中工務店)

取組み報告が終わると、畠中専門部会長が加わり、細川部会長やチャットで届いた参加者からの質問に、五組の工事チームが答えるトークディスカッションを展開。「工事チームでの活動を負担に感じてはいないか」という質問に対し、「梅こまち」の鍋島さんは、「活動を継続していくなかで職人さんが参加してくださるようになって自分たちの士

名古屋造形大学移転新築工事の現場で活動する同工事チームは、「芸術作品『建築』を創っているという共通認識のもと、「一人ひとりが魂を込めた最高の『技術』が発揮できるよう日々奮闘している」と言う。活動内容を「朝礼編」「熱中症対策編」「表示・看板編」「表示・安全編」「デジタル編」「仕事編」に分け、女性ならではの感性で工夫した点をいくつも紹介した。発表者の田仲さんは、「いろいろな取組みができたのは、支店の方々を含め現場の職員、職長さん、職人さんたちの惜しみない協力があったからです」と感謝の気持ちを述べた。

二、「かわにしこまち愛し隊」(IC T) (清水建設(株))

IC T F U L L 活用工事に指定されている新東名高速道路川西

工事で活動する同工事チームは、ICT建機の活用による生産性向上、点群データを利用した出来高・出来形管理の試行など、女性職員が積極的にICTツールを活用して実務にあたっている。この取組みを知ってもらおうと、これまで現場見学会に累計六、〇〇〇名を迎え入れた。発表者の中川さんは、「女性のヘルメットや長靴などを揃えて女性の見学者に配慮しているほか、視覚障害者向けの見学にも対応しています」と取組みを紹介した。

三、「くまもん姫の会」(大成建設(株))

熊本空港新ビル施設新築工事作業所では、女子更衣室にクッションやアロマを置き、くつろげる環境づくりに努めたり、ロボット掃除機を導入して女性職員の担当業務にな

気も高まり、むしろ楽しく感じている」と回答。「工事チームの活動に、周囲の方々を巻き込むには」という質問には、「造る系☆金しゃち娘。」の田仲さんが、「日頃のコミュニケーションを大切にしている。個々がやりたいことを尊重してもらえ

るので苦労を感じていない」と語れば、「くまもん姫の会」の志手さんは、「オリジナルで作成したピンクのヘルメットをきっかけに、活動に興味を持っていたことが多く

なった」と話した。細川部会長や畠中専門部会長からは「所長をはじめ、現場の方々の理解があつて素晴らしい」との声があがった。

細川部会長は、「建設業でこうやって前向きに取り組んでいる方々をご紹介します、広く知ってもらえることは、これから建設業を自分のキャリアの一つとして考えていた方が増やす一つのきっかけになったのではないかと思います」と述べ、サミットを締めくくった。



上/スタジオでの開催の様子(細川部会長(右)と畠中専門部会長(左))
下/参加チームの発表も滞りなく行われた。



開催の様子はQRコードよりご覧いただけます。